

9. 高次脳機能障害者生活状況調査結果

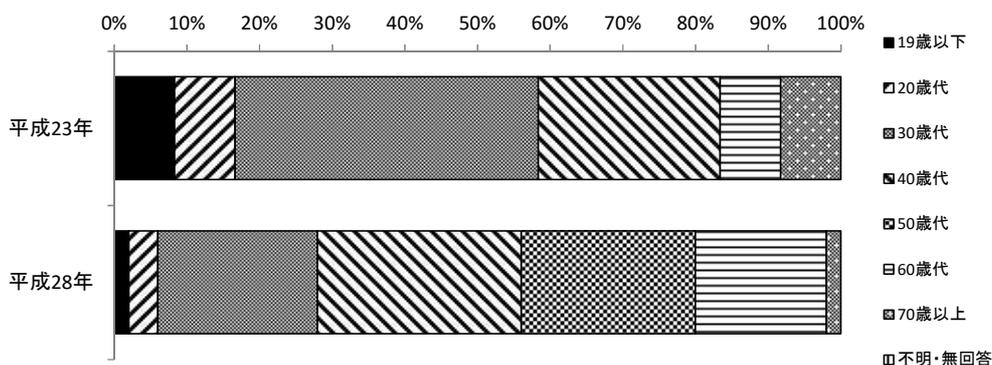
●年齢

年齢構成は、「40歳代」が28.0%と最も多く、次いで「50歳代」が24.0%となっている。

問1 年齢

(単位：%)

	平成23年	平成28年
19歳以下	8.3	2.0
20歳代	8.3	4.0
30歳代	41.7	22.0
40歳代	25.0	28.0
50歳代	0.0	24.0
60歳代	8.3	18.0
70歳以上	8.3	2.0
不明・無回答	0.0	0.0
合計	100.0	100.0
n	12	50



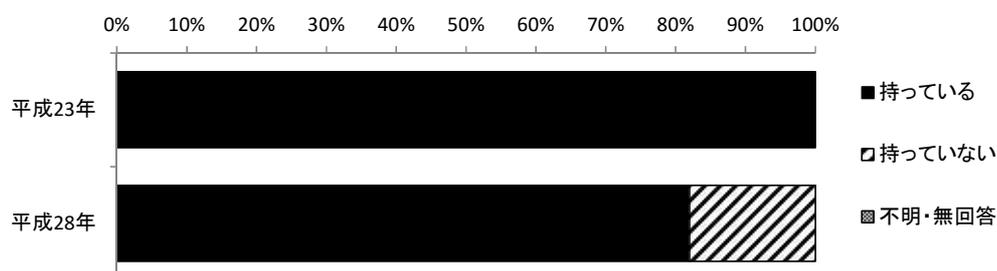
●障害の程度等

障害者手帳の有無は、「持っている」が82.0%、「持っていない」が18.0%となっている。

問7 障害者手帳等の有無

(単位：%)

	平成23年	平成28年
持っている	100.0	82.0
持っていない	0.0	18.0
不明・無回答	0.0	0.0
合計	100.0	100.0
n	12	50

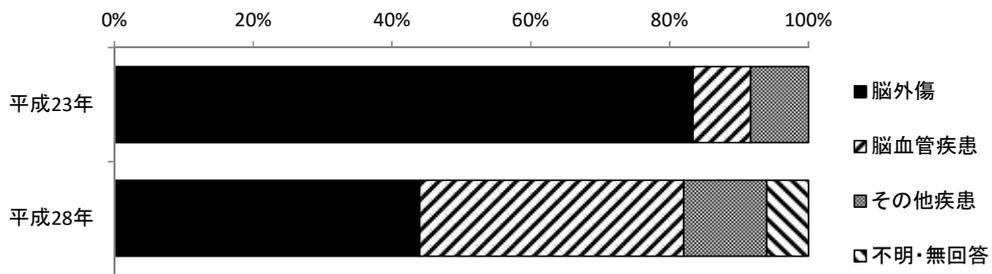


高次脳機能障害の原因疾患については、「脳外傷」が44.0%と最も多く、次いで「脳血管疾患」が38.0%となっている。

問 1 1 高次脳機能障害の原因疾患

(単位：%)

	平成 23 年	平成 28 年
脳外傷	83.3	44.0
脳血管疾患	8.3	38.0
その他疾患	8.3	12.0
不明・無回答	0.0	6.0
合計	100.0	100.0
n	12	50

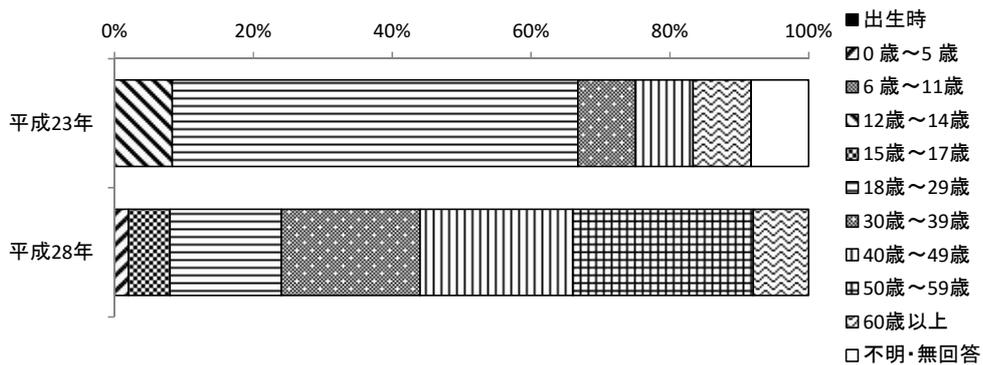


障害を受けた時期については、「50歳～59歳」が26.0%と最も多く、次いで「40～49歳」が22.0%となっている。

問 1 3 障害を受けた時期

(単位：%)

	平成 23 年	平成 28 年
出生時	0.0	0.0
0 歳～5 歳	0.0	2.0
6 歳～11 歳	0.0	0.0
12 歳～14 歳	8.3	0.0
15 歳～17 歳	0.0	6.0
18 歳～29 歳	58.3	16.0
30 歳～39 歳	8.3	20.0
40 歳～49 歳	8.3	22.0
50 歳～59 歳	0.0	26.0
60 歳以上	8.3	8.0
不明・無回答	8.3	0.0
合計	100.0	100.0
n	12	50

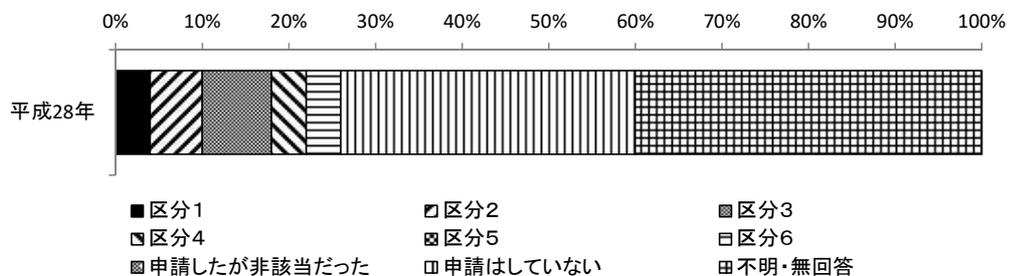


障害支援区分は、「申請はしていない」が34.0%と最も多く、次いで「区分3」が8.0%となっている。

問 1 5 障害支援区分

(単位：%)

	平成28年
区分1	4.0
区分2	6.0
区分3	8.0
区分4	4.0
区分5	0.0
区分6	4.0
申請したが非該当だった	0.0
申請はしていない	34.0
不明・無回答	40.0
合計	100.0
n	50



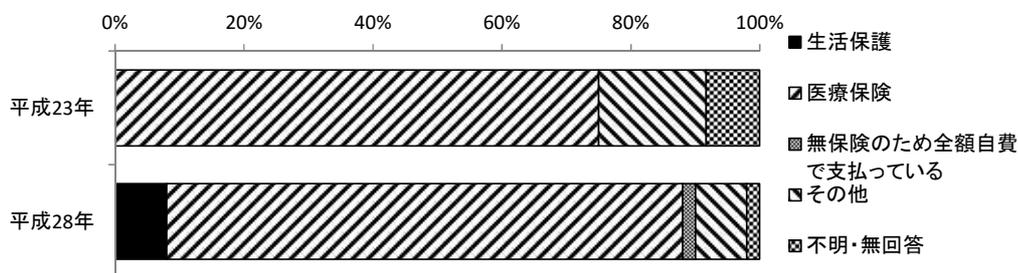
●医療費の状況

医療費は、「医療保険」が80.0%と最も多くなっている。

問6① 医療費の状況の状況

(単位：%)

	平成23年	平成28年
生活保護	0.0	8.0
医療保険	75.0	80.0
無保険のため全額自費で支払っている	0.0	2.0
その他	16.7	8.0
不明・無回答	8.3	2.0
合計	100.0	100.0
n	12	50

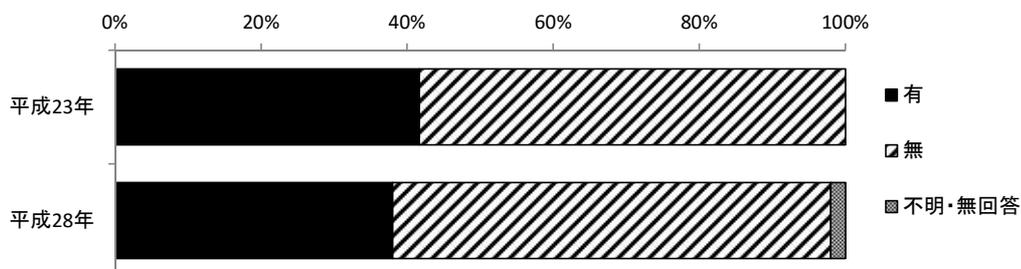


精神通院公費（自立支援医療）は、「有」が38.0%、「無」が60.0%となっている。

問6② 精神通院公費（自立支援医療）の状況

(単位：%)

	平成23年	平成28年
有	41.7	38.0
無	58.3	60.0
不明・無回答	0.0	2.0
合計	100.0	100.0
n	12	50



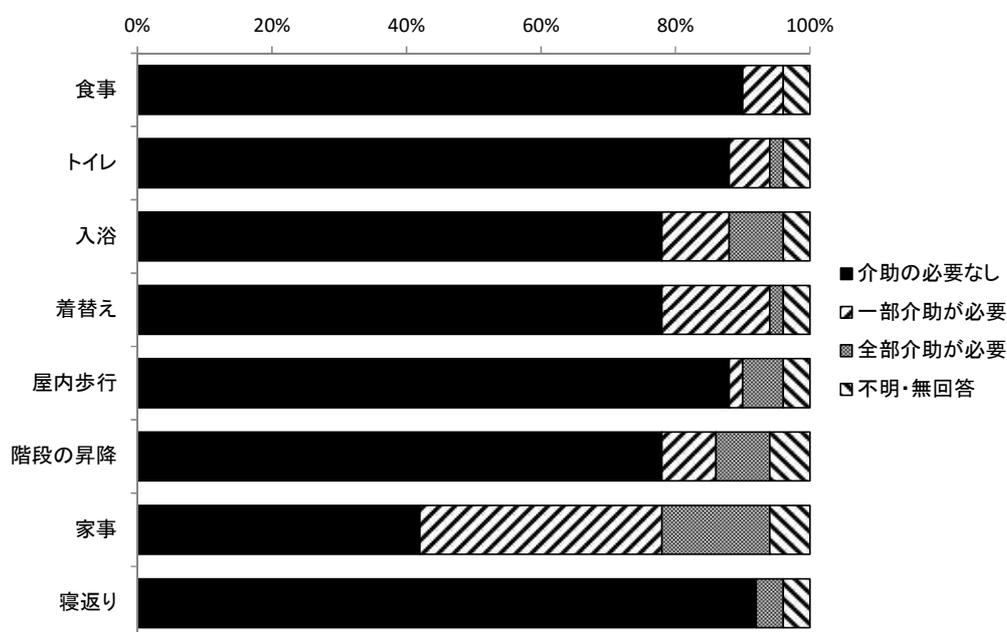
●生活の状況

入院患者の日常生活動作（IADL）の中で，“何らかの介助が必要”（一部介助が必要＋全部介助が必要）である人の割合が高いものは、「家事」で52.0%，次いで、「入浴」と「着替え」が同率で18.0%，「階段の昇降」が16.0%と続いている。

問18 日常生活動作の状況

(単位：%)

	食事		トイレ		入浴		着替え		屋内歩行		階段の昇降		家事		寝返り	
介助の必要なし	90.0		88.0		78.0		78.0		88.0		78.0		42.0		92.0	
一部介助が必要	6.0	6.0	6.0	8.0	10.0	18.0	16.0	18.0	2.0	8.0	8.0	16.0	36.0	52.0	0.0	4.0
全部介助が必要	0.0		2.0		8.0		2.0		6.0		8.0		16.0		4.0	
不明・無回答	4.0		4.0		4.0		4.0		4.0		6.0		6.0		4.0	
合計	100.0		100.0		100.0		100.0		100.0		100.0		100.0		100.0	
n	50		50		50		50		50		50		50		50	



主な介助者は、「父・母」が37.0%で最も多く、次いで「夫または妻」が33.3%となっている。

問19-1 主な介助者

(単位：%)

	平成23年	平成28年
夫または妻	16.7	33.3
父・母	75.0	37.0
子ども	0.0	3.7
兄弟姉妹	0.0	7.4
その他の親族	0.0	0.0
近所の人・知り合いの人	0.0	0.0
民間有料介護者（家政婦など）	0.0	0.0
ホームヘルパー	8.3	3.7
ボランティア	0.0	0.0
入所施設、グループホーム等の職員*	-	7.4
その他	0.0	0.0
主な介助者はいない	0.0	3.7
不明・無回答	0.0	3.7
合計	100.0	100.0
n	12	27

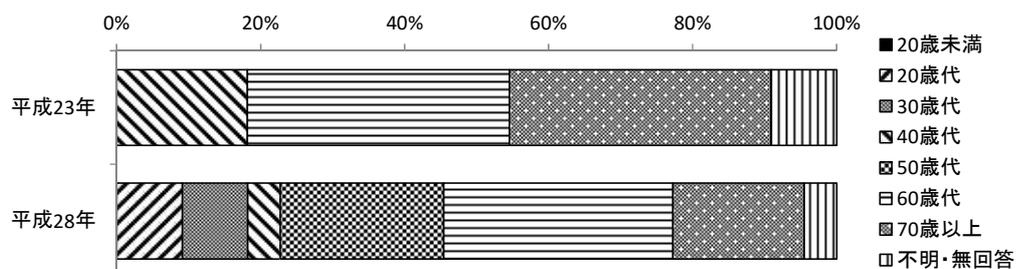
* 平成28年追加項目

主な介助者の年齢は、「60歳代」が31.8%と最も多く、次いで「50歳代」が22.7%となっている。

問19-2-1 主な介助者の年齢

(単位：%)

	平成23年	平成28年
20歳未満	0.0	0.0
20歳代	0.0	9.1
30歳代	0.0	9.1
40歳代	18.2	4.5
50歳代	0.0	22.7
60歳代	36.4	31.8
70歳以上	36.4	18.2
不明・無回答	9.1	4.5
合計	100.0	100.0
n	11	22



●障害者福祉等に関するサービスの利用状況

福祉サービスの利用状況について、ホームヘルプサービス（居宅介護・重度訪問介護）は、「必要がないので利用したことがない」が46.0%で最も多く、次いで「現在、利用している。または利用したことがある」が22.0%となっている。

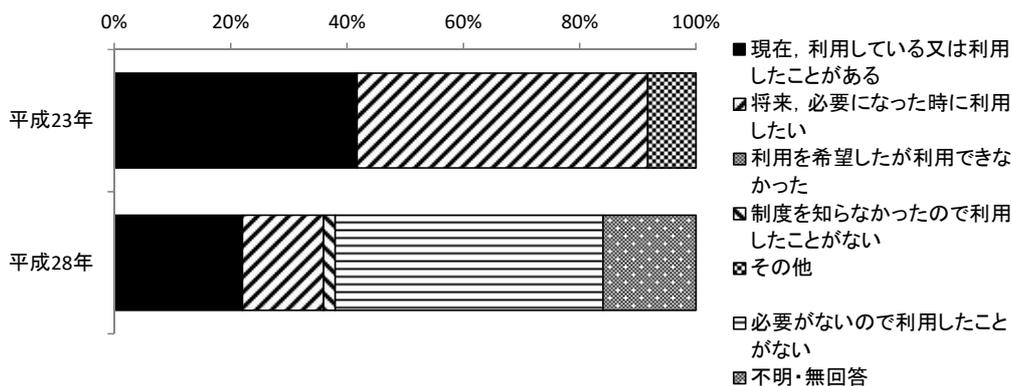
問20（1）ホームヘルプサービス（居宅介護・重度訪問介護）の利用状況

（単位：％）

	平成23年	平成28年
現在、利用している又は利用したことがある	41.7	22.0
将来、必要になった時に利用したい	50.0	14.0
利用を希望したが利用できなかった	0.0	0.0
制度を知らなかったので利用したことがない	0.0	2.0
その他 *1	8.3	-
必要がないので利用したことがない *2	-	46.0
不明・無回答	0.0	16.0
合計	100.0	100.0
n	12	50

*1 平成28年は項目なし

*2 平成28年追加項目



短期入所（ショートステイ）は、「必要がないので利用したことがない」が48.0%で最も多く、次いで「将来、必要になった時に利用したい」が16.0%となっている。

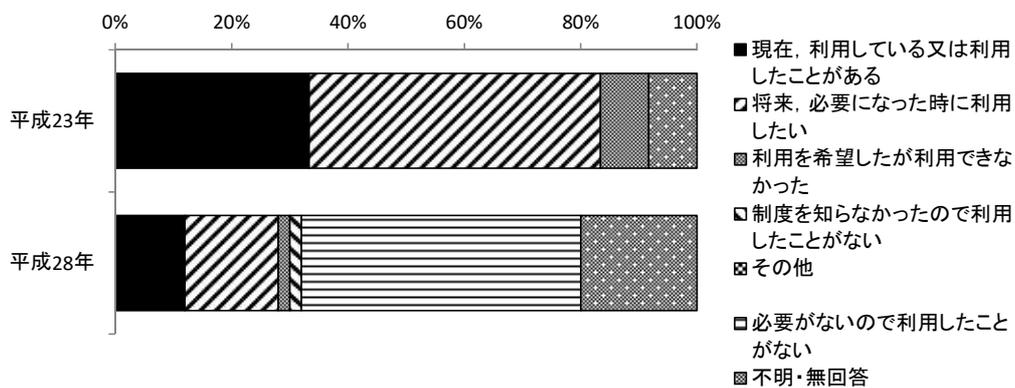
問20（2）短期入所（ショートステイ）の利用状況

（単位：％）

	平成23年	平成28年
現在、利用している又は利用したことがある	33.3	12.0
将来、必要になった時に利用したい	50.0	16.0
利用を希望したが利用できなかった	8.3	2.0
制度を知らなかったので利用したことがない	0.0	2.0
その他 *1	0.0	-
必要がないので利用したことがない *2	-	48.0
不明・無回答	8.3	20.0
合計	100.0	100.0
n	12	50

*1 平成28年は項目なし

*2 平成28年追加項目



生活介護の利用状況は、「必要がないので利用したことがない」が44.0%で最も多く、次いで「現在、利用している又は利用したことがある」が18.0%となっている。

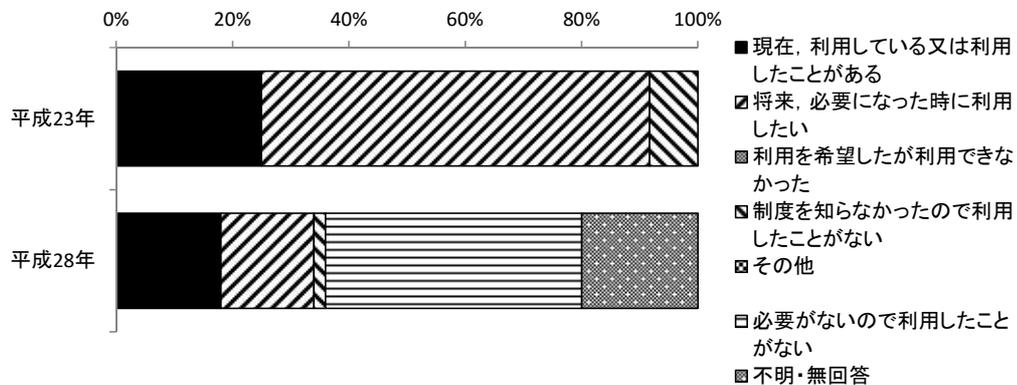
問20(3) 生活介護の利用状況

(単位：%)

	平成23年	平成28年
現在、利用している又は利用したことがある	25.0	18.0
将来、必要になった時に利用したい	66.7	16.0
利用を希望したが利用できなかった	0.0	0.0
制度を知らなかったので利用したことがない	8.3	2.0
その他*1	0.0	-
必要がないので利用したことがない*2	-	44.0
不明・無回答	0.0	20.0
合計	100.0	100.0
n	12	50

*1 平成28年は項目なし

*2 平成28年追加項目

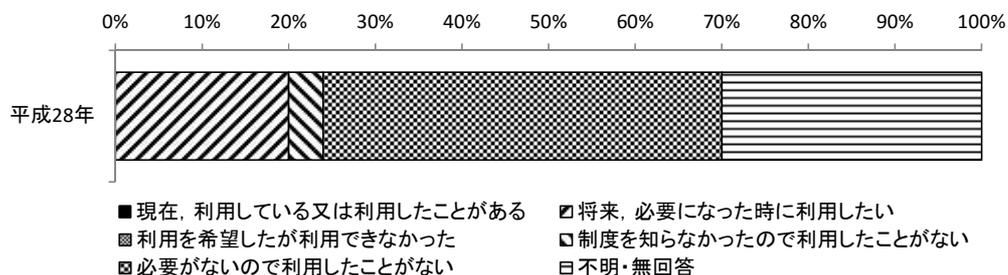


共同生活援助（グループホーム）は、「必要がないので利用したことがない」が46.0%で最も多く、次いで「将来、必要になった時に利用したい」が20.0%となっている。

問20(10) 共同生活援助（グループホーム）の利用状況

(単位：%)

	平成28年
現在、利用している又は利用したことがある	0.0
将来、必要になった時に利用したい	20.0
利用を希望したが利用できなかった	0.0
制度を知らなかったので利用したことがない	4.0
必要がないので利用したことがない	46.0
不明・無回答	30.0
合計	100.0
n	50

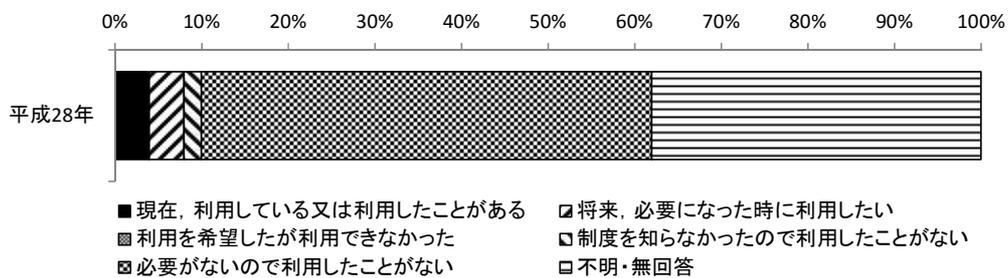


障害児通所支援（児童発達支援、放課後等デイサービス等）は、「必要がないので利用したことがない」が52.0%で最も多く、次いで「現在、利用している又は利用したことがある」と「将来、必要になった時に利用したい」が同率の4.0%となっている。

問20（16）障害児通所支援（児童発達支援、放課後等デイサービス等）の利用状況

（単位：％）

	平成28年
現在、利用している又は利用したことがある	4.0
将来、必要になった時に利用したい	4.0
利用を希望したが利用できなかった	0.0
制度を知らなかったので利用したことがない	2.0
必要がないので利用したことがない	52.0
不明・無回答	38.0
合計	100.0
n	50

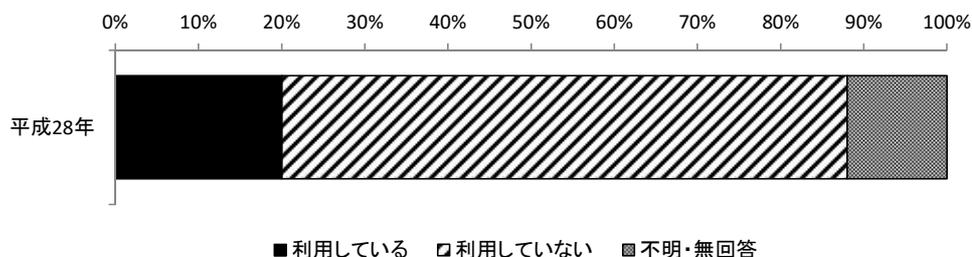


介護保険サービスの利用の有無については、「利用している」が20.0%、「利用していない」が68.0%となっている。

問24 介護保険サービスの利用の有無

（単位：％）

	平成28年
利用している	20.0
利用していない	68.0
不明・無回答	12.0
合計	100.0
n	50

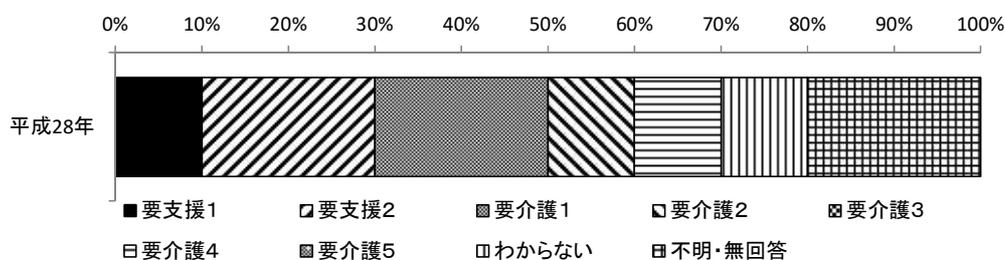


要介護認定区分は、「要支援2」と「要介護1」がともに20.0%で最も多く、次いで「要支援1」、「要介護2」、「要介護4」、「わからない」が10.0%となっている。

問25-1 要介護認定区分

(単位：%)

	平成28年
要支援1	10.0
要支援2	20.0
要介護1	20.0
要介護2	10.0
要介護3	0.0
要介護4	10.0
要介護5	0.0
わからない	10.0
不明・無回答	20.0
合計	100.0
n	10

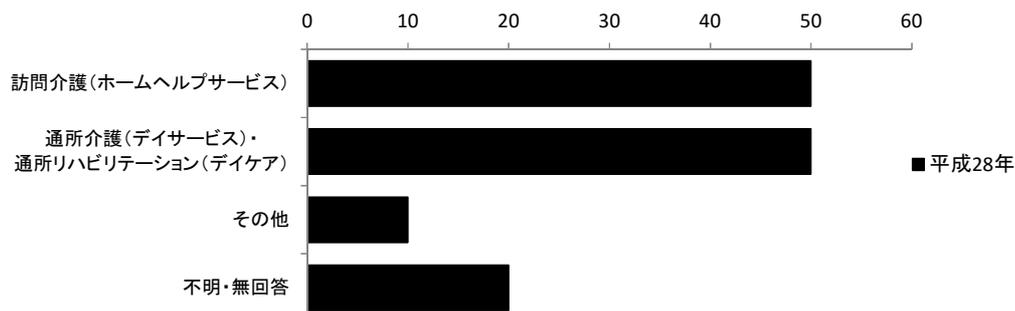


利用している介護保険サービスについては、「訪問介護（ホームヘルプサービス）」と「通所介護（デイサービス）・通所リハビリテーション（デイケア）」がともに50.0%で最も多く、次いで「その他」が10.0%となっている。

問25-2 利用している介護保険サービス（複数回答）

(単位：%)

	平成28年
訪問介護（ホームヘルプサービス）	50.0
通所介護（デイサービス）・通所リハビリテーション（デイケア）	50.0
その他	10.0
不明・無回答	20.0
合計	130.0
n	10



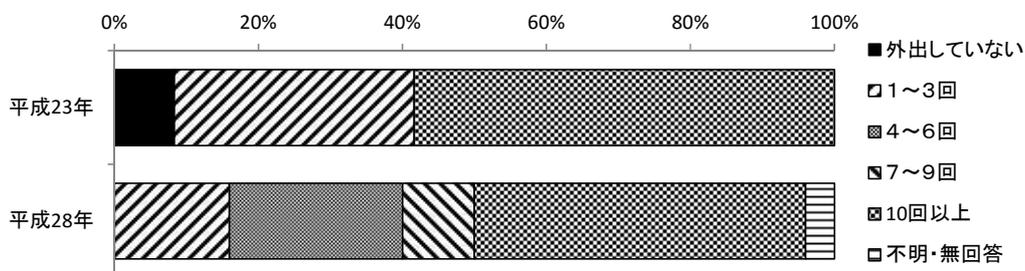
●外出の状況

外出回数（仕事・通学以外の場合）については、「月に10回以上」が46.0%と最も多く、次いで「月に4～6回」が24.0%となっている。

問26（2） 仕事・通学以外の場合の外出回数

（単位：％）

	平成23年	平成28年
外出していない	8.3	0.0
1～3回	33.3	16.0
4～6回	0.0	24.0
7～9回	0.0	10.0
10回以上	58.3	46.0
不明・無回答	0.0	4.0
合計	100.0	100.0
n	12	50

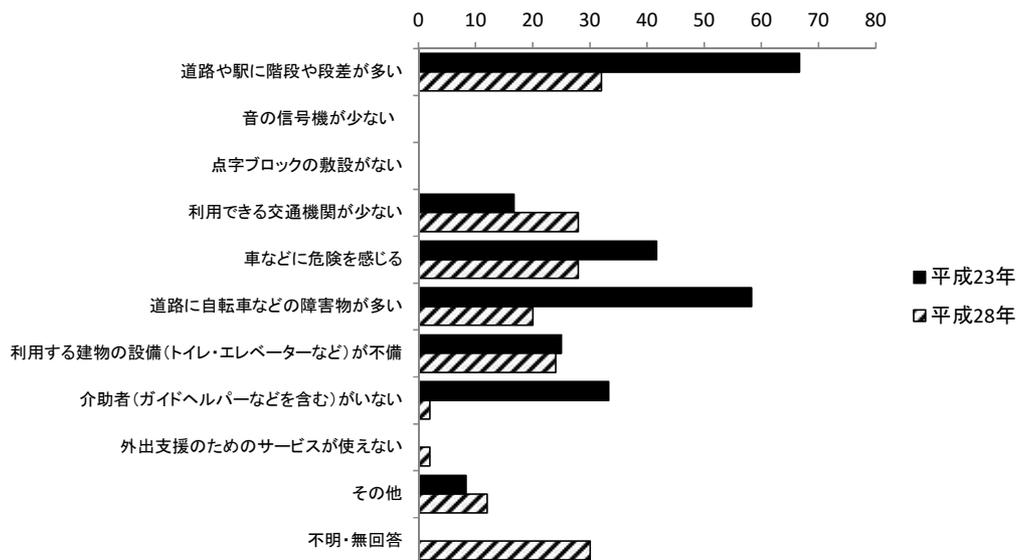


外出の際の問題点（複数回答）については、「道路や駅に階段や段差が多い」が32.0%と最も多く、次いで「利用できる交通機関が少ない」「車などに危険を感じる」が共に28.0%となっている。

問 2 8 外出の際の問題点（複数回答3つまで）

（単位：％）

	平成 23 年	平成 28 年
道路や駅に階段や段差が多い	66.7	32.0
音の信号機が少ない	0.0	0.0
点字ブロックの敷設がない	0.0	0.0
利用できる交通機関が少ない	16.7	28.0
車などに危険を感じる	41.7	28.0
道路に自転車などの障害物が多い	58.3	20.0
利用する建物の設備（トイレ・エレベーターなど）が不備	25.0	24.0
介助者（ガイドヘルパーなどを含む）がいない	33.3	2.0
外出支援のためのサービスが使えない	-	2.0
その他	8.3	12.0
不明・無回答	0.0	30.0
合計	250.0	178.0
n	12	50



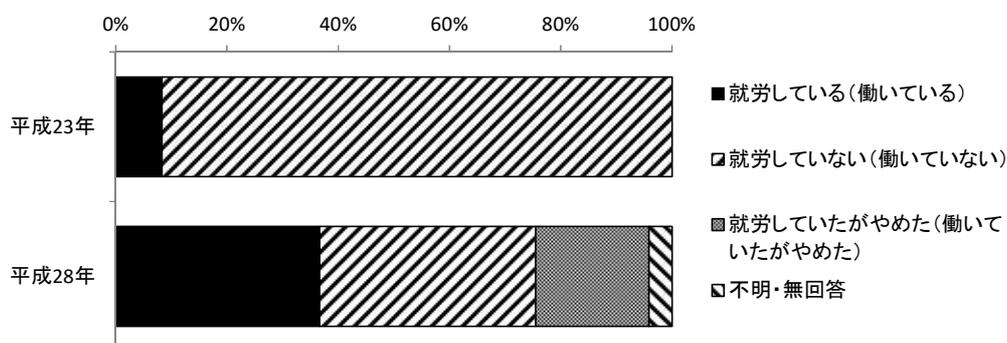
●就労（仕事）・収入の状況(18歳以上)

就労状況については、「就労している（働いている）」が36.7%、「就労していない（働いていない）」と「就労していたがやめた（働いていたがやめた）」を合わせると59.2%となっている。

問30 就労状況

(単位：%)

	平成23年		平成28年	
就労している（働いている）	8.3		36.7	
就労していない（働いていない）	91.7	91.7	38.8	59.2
就労していたがやめた（働いていたがやめた）	0.0		20.4	
不明・無回答	0.0		4.1	
合計	100.0		100.0	
n	12		49	



就労している人の就労形態は、「パート・アルバイト」が33.3%で最も多く、次いで、「就労移行（継続）支援事業所」が27.8%などと続いている。

問31-3 就労形態

(単位：%)

	平成23年	平成28年
正規の職員（本雇）	0.0	22.2
パート・アルバイト	0.0	33.3
内職	0.0	0.0
家の仕事	0.0	11.1
就労移行（継続）支援事業所*	100.0	27.8
その他	0.0	5.6
不明・無回答	0.0	0.0
合計	100.0	100.0
n	1	18

* 平成23年は「就労移行（継続）支援事業所、授産施設、共同作業所など」

「就労移行（継続）支援事業所」で働く人のうち、今後、企業での就労を希望している割合は100.0%である。

問3 1-4-1 企業での就労希望の有無

(単位：%)

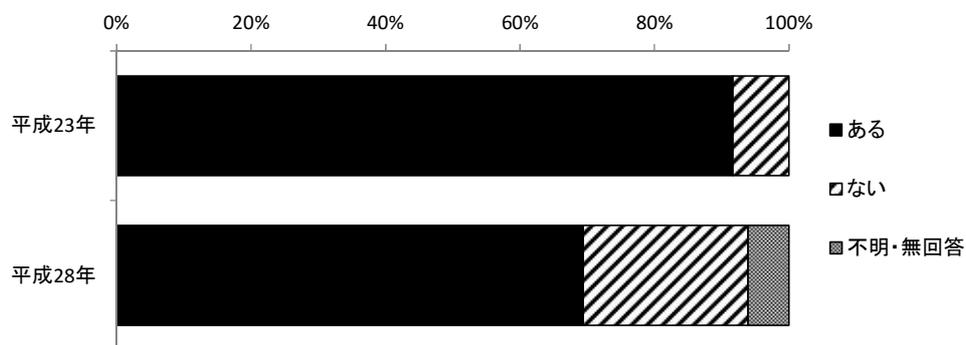
	平成23年	平成28年
希望する	0.0	100.0
希望しない（今のままがいい）	100.0	0.0
不明・無回答	0.0	0.0
合計	100.0	100.0
n	1	5

収入の有無では、「ある」が69.4%、「ない」が24.5%となっている。

問3 4 収入の有無

(単位：%)

	平成23年	平成28年
ある	91.7	69.4
ない	8.3	24.5
不明・無回答	0.0	6.1
合計	100.0	100.0
n	12	49



収入の種類では、「年金による収入」が50.0%と最も多く、次いで「事業や給与・賃金などによる収入」が35.3%と続いている。他の収入については10.0%未満となっている。

問3 5-1 収入の種類

(単位：%)

	平成23年	平成28年
事業や給与・賃金などによる収入	0.0	35.3
年金による収入	100.0	50.0
手当による収入	0.0	8.8
仕送りや家族の援助による収入	0.0	0.0
家賃・地代・利子・財産収入など	0.0	0.0
その他*	-	2.9
不明・無回答	0.0	2.9
合計	100.0	100.0
n	11	34

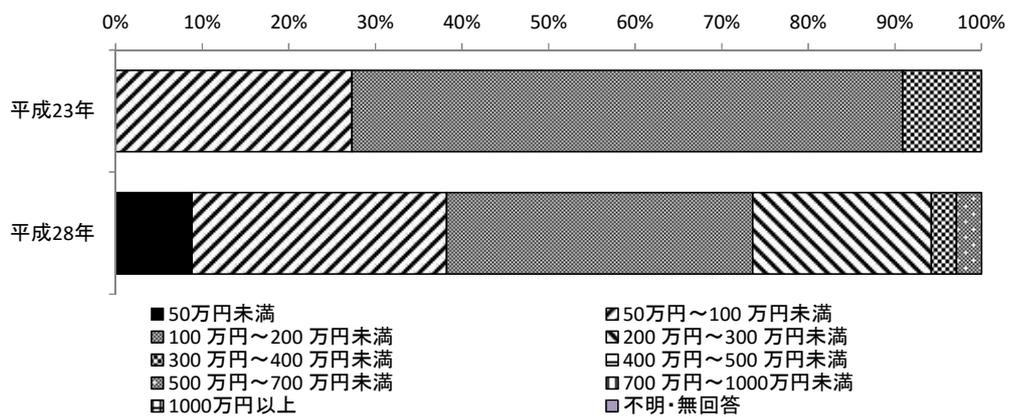
* 平成28年追加項目

収入の額では、「100万円～200万円未満」が35.3%、「50万円～100万円未満」が29.4%、「200万円～300万円未満」が20.6%と続いている。

問35-2 収入額

(単位：%)

	平成23年	平成28年
50万円未満	0.0	8.8
50万円～100万円未満	27.3	29.4
100万円～200万円未満	63.6	35.3
200万円～300万円未満	0.0	20.6
300万円～400万円未満	9.1	2.9
400万円～500万円未満	0.0	0.0
500万円～700万円未満	0.0	2.9
700万円～1000万円未満	0.0	0.0
1000万円以上	0.0	0.0
不明・無回答	0.0	0.0
合計	100.0	100.0
n	11	34



●教育の状況

就学前教育（複数回答）は、該当する1人が「幼稚園」と回答している。

問37-1 就学前教育の状況（複数回答2つまで）

（単位：％）

	平成28年
保育所	0.0
幼稚園	100.0
障害児通園施設	0.0
総合療育事業	0.0
その他	0.0
いずれにも通っておらず、自宅にいる	0.0
不明・無回答	0.0
合計	100.0
n	1

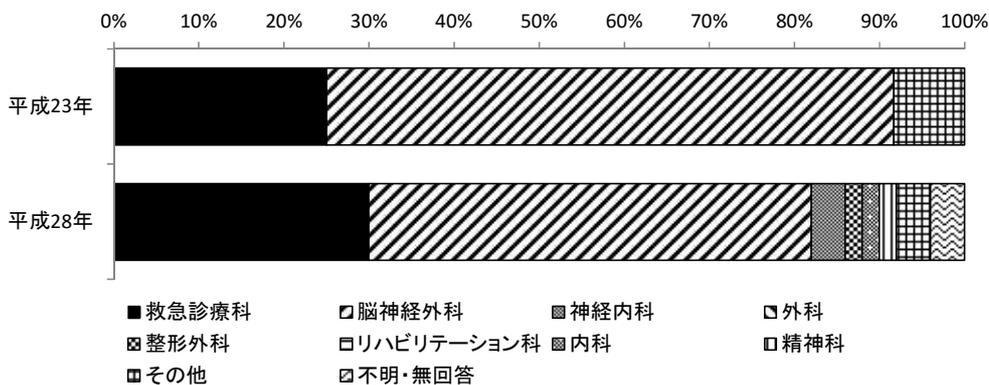
●健康・医療などの状況

発症後に最初にかかった診療科については、「脳神経外科」が52.0%で最も多く、次いで「救急診療科」が30.0%となっている。

問40 発症後に最初にかかった診療科

（単位：％）

	平成23年	平成28年
救急診療科	25.0	30.0
脳神経外科	66.7	52.0
神経内科	0.0	4.0
外科	0.0	0.0
整形外科	0.0	2.0
リハビリテーション科	0.0	0.0
内科	0.0	2.0
精神科	0.0	2.0
その他	8.3	4.0
不明・無回答	0.0	4.0
合計	100.0	100.0
n	12	50

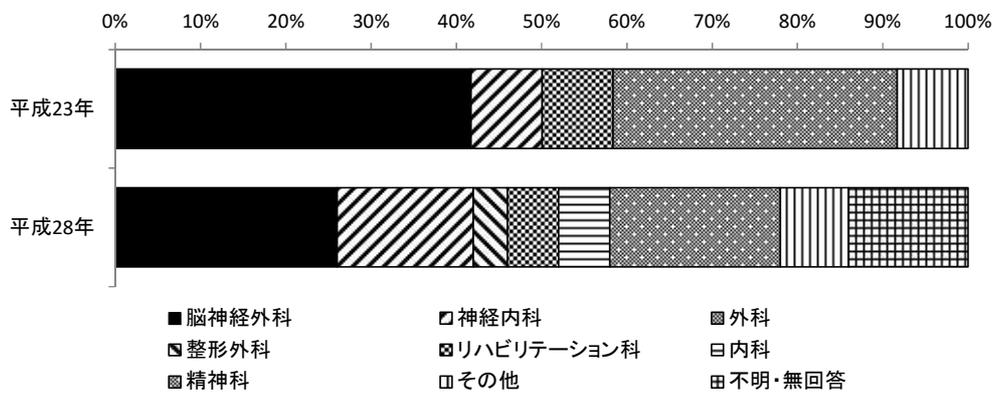


現在かかっている診療科については、「脳神経外科」が26.0%で最も多く、次いで「精神科」が20.0%となっている。

問 4 1 現在かかっている診療科

(単位：%)

	平成 23 年	平成 28 年
脳神経外科	41.7	26.0
神経内科	8.3	16.0
外科	0.0	0.0
整形外科	0.0	4.0
リハビリテーション科	8.3	6.0
内科	0.0	6.0
精神科	33.3	20.0
その他	8.3	8.0
不明・無回答	0.0	14.0
合計	100.0	100.0
n	12	50



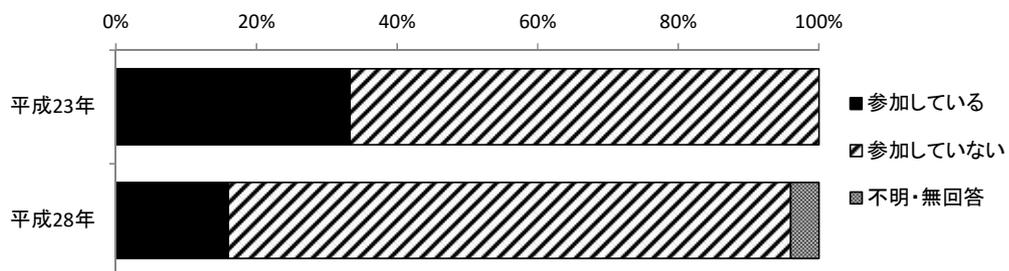
●社会参加の状況

スポーツや文化活動などの社会活動に「参加している」人は16.0%、「参加していない」人は80.0%となっており、社会参加している人の比率は約2割となっている。

問 4 4 スポーツや文化活動など社会活動参加の状況

(単位：%)

	平成 23 年	平成 28 年
参加している	33.3	16.0
参加していない	66.7	80.0
不明・無回答	0.0	4.0
合計	100.0	100.0
n	12	50

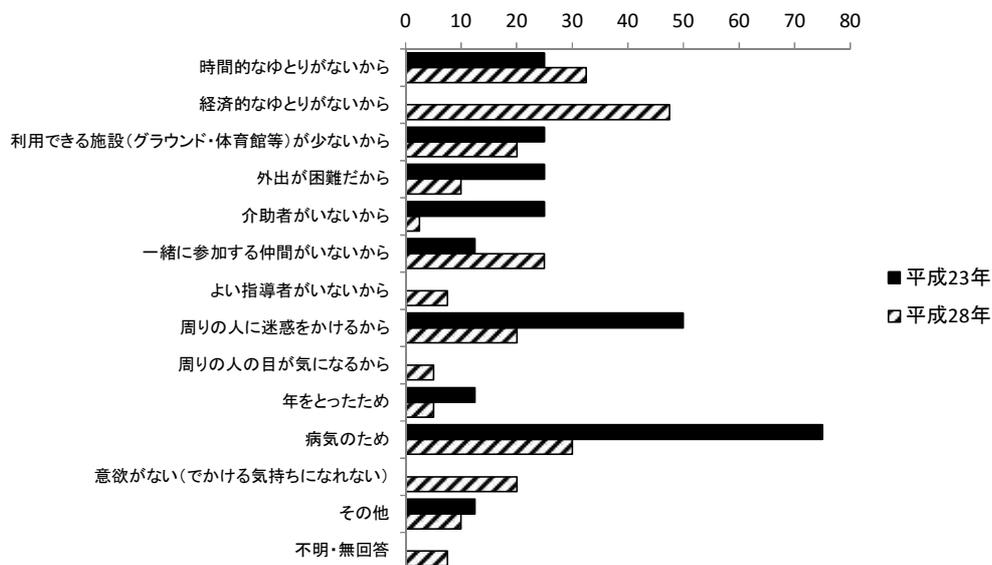


参加していない理由（複数回答）については、「経済的なゆとりがないから」が47.5%で最も多く、次いで「時間的なゆとりがないから」が32.5%、「病気のため」が30.0%と続いている。

問46-1 社会活動に参加していない理由(複数回答3つまで)

(単位：%)

	平成23年	平成28年
時間的なゆとりがないから	25.0	32.5
経済的なゆとりがないから	0.0	47.5
利用できる施設（グラウンド・体育館等）が少ないから	25.0	20.0
外出が困難だから	25.0	10.0
介助者がいないから	25.0	2.5
一緒に参加する仲間がいないから	12.5	25.0
よい指導者がいないから	0.0	7.5
周りの人に迷惑をかけるから	50.0	20.0
周りの人の目が気になるから	0.0	5.0
年をとったため	12.5	5.0
病気のため	75.0	30.0
意欲がない（でかける気持ちになれない）	-	20.0
その他	12.5	10.0
不明・無回答	0.0	7.5
合計	262.5	242.5
n	8	40



●災害時の対応

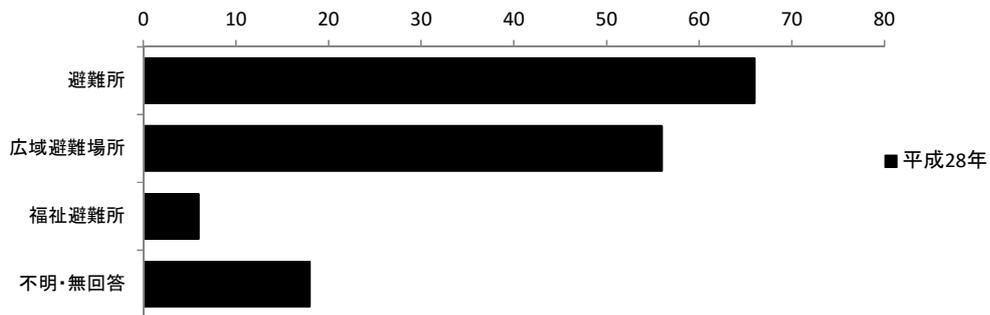
避難場所の認知（複数回答）については、「避難所」が66.0%、「広域避難場所」が56.0%、「福祉避難所」が6.0%となっている。

問47 避難場所の認知（複数回答）*

（単位：％）

	平成23年	平成28年
「一時避難場所」と「広域避難場所」の両方を知っている	50.0	-
「一時避難場所」だけ知っている	8.3	-
「広域避難場所」だけ知っている	8.3	-
両方とも知らない	33.3	-
避難所	-	66.0
広域避難場所	-	56.0
福祉避難所	-	6.0
不明・無回答	0.0	18.0
合計	100.0	146.0
n	12	50

* 平成23年度は単数回答

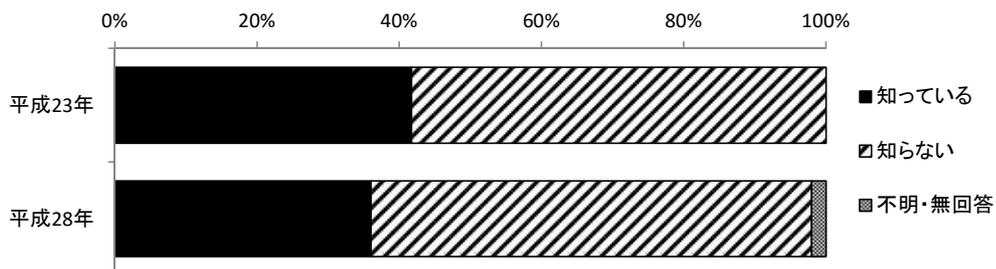


自主防災組織の認知については、「知っている」は36.0%、「知らない」が62.0%となっている。

問49 自主防災組織の認知

（単位：％）

	平成23年	平成28年
知っている	41.7	36.0
知らない	58.3	62.0
不明・無回答	0.0	2.0
合計	100.0	100.0
n	12	50

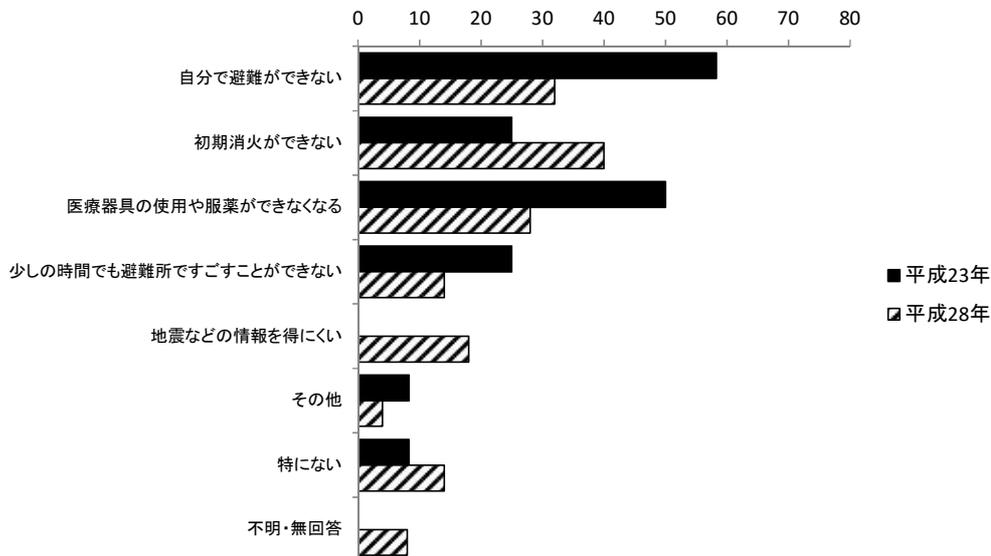


災害時の不安（複数回答）については、は、「すぐに自分で消火ができない」が40.0%で最も多く、次いで「自分で避難ができない」が32.0%、「医療器具の使用や服薬ができなくなる」が28.0%、「地震などの情報を得にくい」が18.0%と続いている。

問53 災害時の不安（複数回答2つまで）

（単位：％）

	平成23年	平成28年
自分で避難ができない	58.3	32.0
初期消火ができない	25.0	40.0
医療器具の使用や服薬ができなくなる	50.0	28.0
少しの時間でも避難所ですぐすことができない	25.0	14.0
地震などの情報を得にくい	0.0	18.0
その他	8.3	4.0
特にない	8.3	14.0
不明・無回答	0.0	8.0
合計	174.9	158.0
n	12	50



●福祉施策への要望など

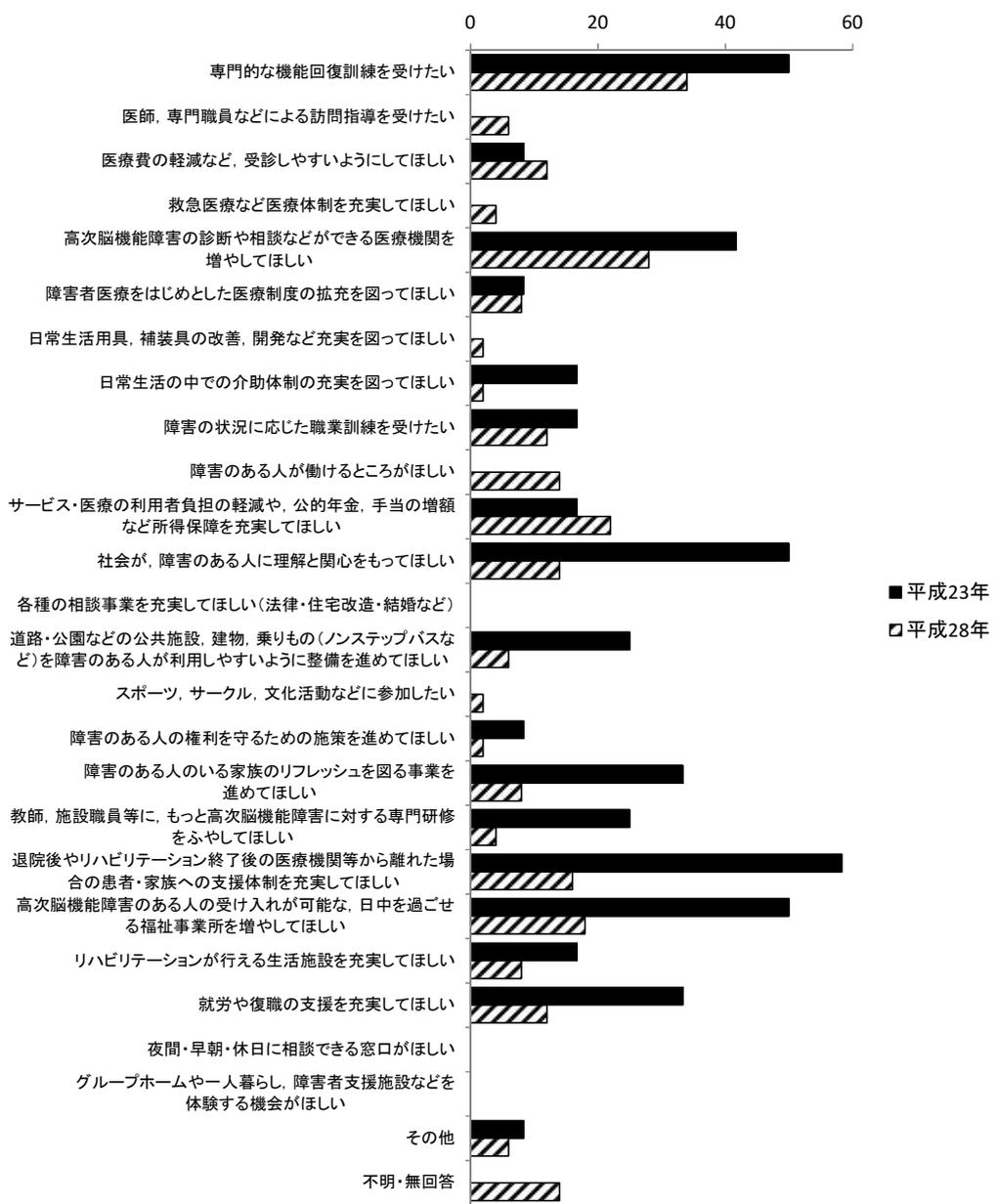
福祉施策への要望（複数回答）では、「専門的な機能回復訓練を受けたい」が34.0%で最も多く、次いで「高次脳機能障害の診断や相談などができる医療機関を増やしてほしい」が28.0%、「サービス・医療の利用者負担の軽減や、公的年金、手当の増額など所得保障を充実してほしい」が22.0%などとなっている。

問59 福祉施策への要望（複数回答5つまで）

（単位：％）

	平成23年	平成28年
専門的な機能回復訓練を受けたい	50.0	34.0
医師、専門職員などによる訪問指導を受けたい	0.0	6.0
医療費の軽減など、受診しやすいようにしてほしい	8.3	12.0
救急医療など医療体制を充実してほしい	0.0	4.0
高次脳機能障害の診断や相談などができる医療機関を増やしてほしい	41.7	28.0
障害者医療をはじめとした医療制度の拡充を図ってほしい	8.3	8.0
日常生活用具、補装具の改善、開発など充実を図ってほしい	0.0	2.0
日常生活の中での介助体制の充実を図ってほしい	16.7	2.0
障害の状況に応じた職業訓練を受けたい	16.7	12.0
障害のある人が働けるところがほしい	0.0	14.0
サービス・医療の利用者負担の軽減や、公的年金、手当の増額など所得保障を充実してほしい	16.7	22.0
社会が、障害のある人に理解と関心をもってほしい	50.0	14.0
各種の相談事業を充実してほしい（法律・住宅改造・結婚など）	0.0	0.0
道路・公園などの公共施設、建物、乗りもの（ノンステップバスなど）を障害のある人が利用しやすいように整備を進めてほしい	25.0	6.0
スポーツ、サークル、文化活動などに参加したい	0.0	2.0
障害のある人の権利を守るための施策を進めてほしい	8.3	2.0
障害のある人のいる家族のリフレッシュを図る事業を進めてほしい	33.3	8.0
教師、施設職員等に、もっと高次脳機能障害に対する専門研修をふやしてほしい	25.0	4.0
退院後やリハビリテーション終了後の医療機関等から離れた場合の患者・家族への支援体制を充実してほしい	58.3	16.0
高次脳機能障害のある人の受け入れが可能な、日中を過ごせる福祉事業所を増やしてほしい	50.0	18.0
リハビリテーションが行える生活施設を充実してほしい	16.7	8.0
就労や復職の支援を充実してほしい	33.3	12.0
夜間・早朝・休日に相談できる窓口がほしい *	-	0.0
グループホームや一人暮らし、障害者支援施設などを体験する機会がほしい *	-	0.0
その他	8.3	6.0
不明・無回答	0.0	14.0
合計	466.6	254.0
n	12	50

* 平成28年追加項目



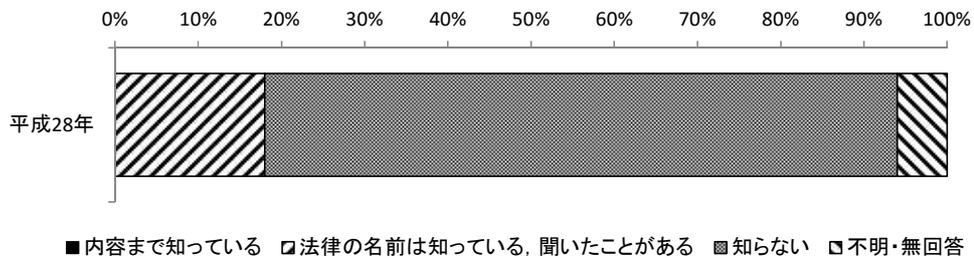
●障害者差別解消法の認知

障害者差別解消法の認知については、「知らない」が76.0%で最も多く、次いで「法律の名前は知っている、聞いたことがある」が18.0%となっている。

問60 障害者差別解消法の認知

(単位：%)

	平成28年
内容まで知っている	0.0
法律の名前は知っている、聞いたことがある	18.0
知らない	76.0
不明・無回答	6.0
合計	100.0
n	50



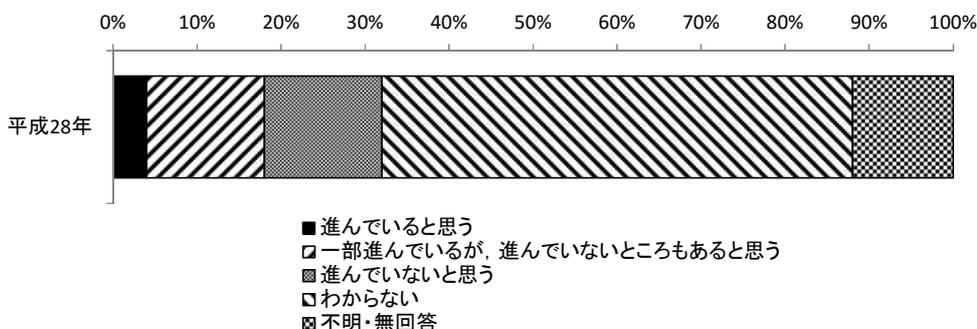
● 「支えあうまち・京都ほほえみプラン」の進捗状況

お互いに認め合い支え合うことの必要性の啓発については、「わからない」が56.0%で最も多く、次いで「一部進んでいるが、進んでいないところもあると思う」と「進んでいないと思う」が同率で14.0%、「進んでいると思う」が4.0%となっている。

問6 1-1 お互いに認め合い支え合うことの必要性の啓発

(単位：%)

	平成28年
進んでいると思う	4.0
一部進んでいるが、進んでいないところもあると思う	14.0
進んでいないと思う	14.0
わからない	56.0
不明・無回答	12.0
合計	100.0
n	50

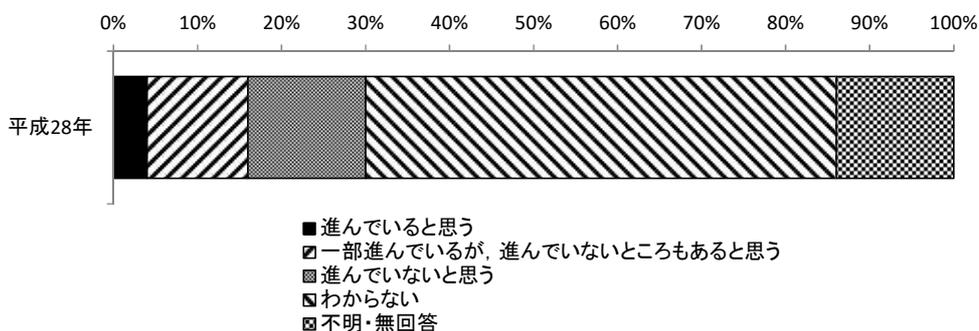


障害児者の地域生活を支える福祉サービス等の基盤づくりについては、「わからない」が56.0%で最も多く、次いで「進んでいないと思う」が14.0%、「一部進んでいるが、進んでいないところもあると思う」が12.0%、「進んでいると思う」が4.0%となっている。

問6 1-2 障害児者の地域生活を支える福祉サービス等の基盤づくり

(単位：%)

	平成28年
進んでいると思う	4.0
一部進んでいるが、進んでいないところもあると思う	12.0
進んでいないと思う	14.0
わからない	56.0
不明・無回答	14.0
合計	100.0
n	50

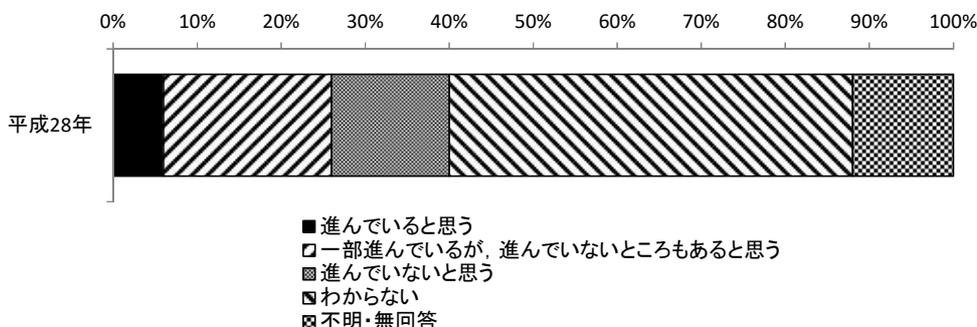


多様な相談に対応できる体制の整備と関係機関の連携体制づくりについては、「わからない」が48.0%で最も多く、次いで「一部進んでいるが、進んでいないところもあると思う」が20.0%、「進んでいないと思う」が14.0%、「進んでいると思う」が6.0%となっている。

問6 1-3 多様な相談に対応できる体制の整備と関係機関の連携体制づくり

(単位：%)

	平成28年
進んでいると思う	6.0
一部進んでいるが、進んでいないところもあると思う	20.0
進んでいないと思う	14.0
わからない	48.0
不明・無回答	12.0
合計	100.0
n	50

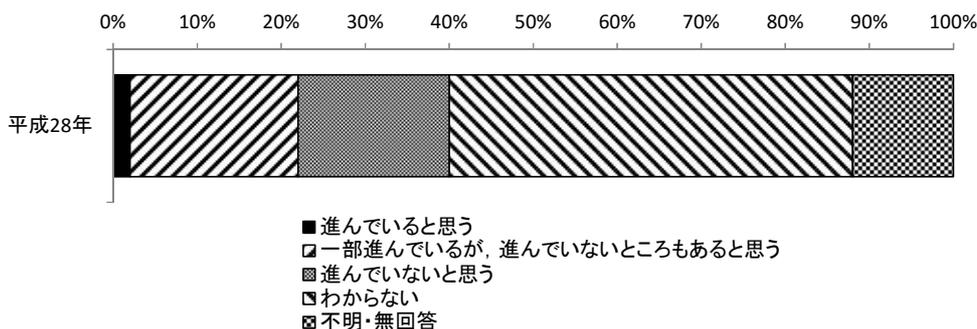


精神疾患・精神障害のある人の治療から地域生活までの支援体制づくりについては、「わからない」が48.0%で最も多く、次いで「一部進んでいるが、進んでいないところもあると思う」が20.0%、「進んでいないと思う」が18.0%、「進んでいると思う」が2.0%となっている。

問6 1-4 精神疾患・精神障害のある人の治療から地域生活までの支援体制づくり

(単位：%)

	平成28年
進んでいると思う	2.0
一部進んでいるが、進んでいないところもあると思う	20.0
進んでいないと思う	18.0
わからない	48.0
不明・無回答	12.0
合計	100.0
n	50

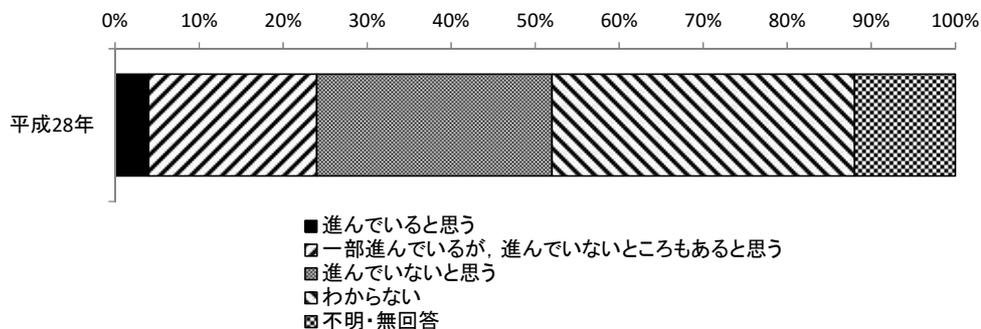


一般就労から福祉的就労までの就労支援ネットワークの構築については、「わからない」が36.0%で最も多く、次いで「進んでいないと思う」が28.0%、「一部進んでいるが、進んでいないところもあると思う」が20.0%、「進んでいると思う」が4.0%となっている。

問6 1-5 一般就労から福祉的就労までの就労支援ネットワークの構築

(単位：%)

	平成28年
進んでいると思う	4.0
一部進んでいるが、進んでいないところもあると思う	20.0
進んでいないと思う	28.0
わからない	36.0
不明・無回答	12.0
合計	100.0
n	50



人にやさしく安心・安全なまちづくりについては、「わからない」が40.0%で最も多く、次いで「進んでいないと思う」が24.0%、「一部進んでいるが、進んでいないところもあると思う」が20.0%、「進んでいると思う」が6.0%となっている。

問6 1-6 人にやさしく安心・安全なまちづくり

(単位：%)

	平成28年
進んでいると思う	6.0
一部進んでいるが、進んでいないところもあると思う	20.0
進んでいないと思う	24.0
わからない	40.0
不明・無回答	10.0
合計	100.0
n	50

